

またたきて星大粒や鬼やらひ

姿ある鬼あはれなり鬼やらひ

隣まで来てゐる幸や鬼やらひ

森 澄雄

三橋敏雄

市村正之

たのです。

民間では、豆撒きの行事は節分の日に盛んに行われていますが、大晦日に行く地方もあります。

例句解説 節分の夜、近所の家々から豆を撒く声が聞こえてきます。

窓や戸を開け放すと、外にもれだした家々の明かりのなかで人々が闇に向かって目に見えぬ鬼を追っている、そうした光景は近年見かけることが少なくなりました。

掲句は、鬼を追っている最中、ふと夜空を見上げると、大粒の星が明るくまたいたっている、占来よりの人の暮らしと悠久の自然のなかにいる私、その感動が湧いてきます。

季語解説

日本では一般に節分の豆撒きを追儼とか鬼やらいとよびます。

本来は疫鬼を追ひ払う中国の伝統行事でした。日本にも古くから陰陽道の行事として宮中に取り入れられ、毎年大晦日の夜に行われました。

陰陽道では、年の変わり目に

は、陰気と陽気が相剋して疫鬼となつて、人間に災厄をもたらすと考えられているのです。

旧暦では節分が大晦日に当たり、その翌日の立春から正月でした。

新暦となつてからは大晦日と節分が分かれてしまいましたのが節分は2月というのが定着し



追儼はもと大晦日だったが新暦になって節分の日に。(写真提供：十市・新宮神社)

●覚えておきたい季語と
よく使う季語を網羅
●詳しい解説と句作のためのアドバイスが充実
●古典から現代まで、多彩な例句を掲載

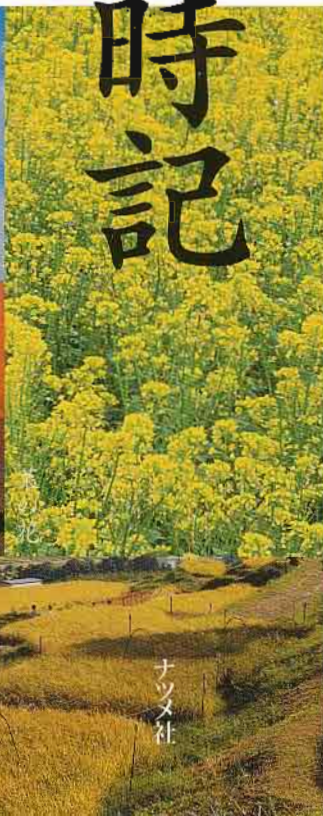
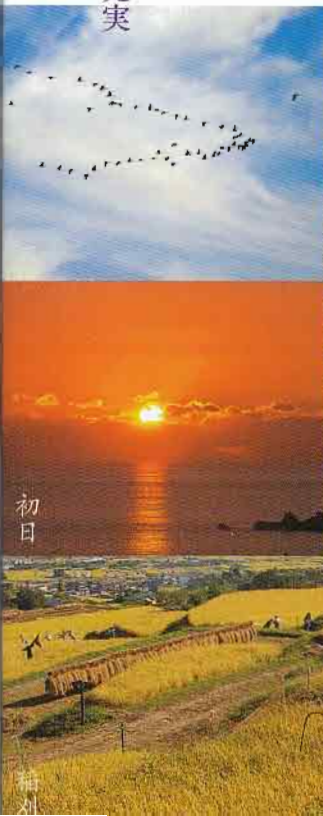
俳句歳時記

よくわかる



石寒太 編

カラー写真満載！
初心者から愛好者まで
使いやすい
決定版！



よくわかる

俳句歳時記

石寒太 編



ナツメ社
4951



9784816349515

ISBN978-4-8163-4951-5

C2092 ¥2600E



1922092026005

定価：本体2,600円+税

ナツメ社